

小林市(九州・沖縄ブロック)

【計画期間 平成28年4月～令和4年3月】

・平成18年に旧小林市と旧須木村が合併。平成22年に小林市と野尻町が合併し現在に至っている。
 ・南西部には霧島連山が、北部には九州山地の山岳が連なり、緑豊かな森林や高原が開け、清らかな溪流美を誇る河川とその流域には優良農地が広がり、ジオサイト(地質遺産)や温泉、湖沼などの個性的な地域資源を多数有している
 ・人口46,245人(平成27年国勢調査) 面積562.95km²

【中心市街地を巡る状況】

- 小林カルデラが陥没した小林盆地の中に位置しており、国や県の出先機関、金融機関、医療機関、商業施設等を集め、宮崎県西諸広域市町村圏の中心都市として機能している。
- 熊本県人吉・球磨地方の中心都市である「人吉市」と宮崎県第二の都市「都城市」を結ぶ国道221号線沿道に形成されていることから、鹿児島、熊本、福岡等の九州主要都市とを結ぶ交通の要所として発展してきたが、モータリゼーションの進展に伴い中心市街地の衰退がはじまる。
- 自動車等の移動手段を持たない高齢者等の買い物不便、いわゆる買い物難民への対応が急務である。

【中心市街地に関する指標の推移】

- 休日歩行者・自転車通行量
H23:929人 → H26:876人 (▲53人、▲5.7%)
- 中心市街地人口
H20:6,992人 → H26:6,913人 (▲79人、▲1.1%)

【目指す中心市街地像】

「ひと」「もの」「かね」「ちえ」地域資源を総動員した中心市街地活性化

■計画の目標

目標	指標	基準値	目標値
安定した雇用を創る	新規開業事業所数の増加	10事業者 (H26)	12事業者 (R3)
新しい人の流れを創る	休日歩行者・自転車通行量	876人/日 (H26)	1,842人/日 (R3)
快適に暮らせるまちを創る	居住人口	6,913人 (H26)	7,081人 (R3)

安定した雇用を創る

新しい人の流れを創る

快適に暮らせるまちを創る

【主要事業】

- ・江南跡地活用事業 商業施設整備
 - ・江南跡地周辺整備事業 宿泊施設整備事業
 - ・チャレンジショップ事業
- など

【主要事業】

- ・小林駅周辺整備事業
 - ・新市庁舎の建設・整備事業
 - ・「てなんど」シャトルバス事業
- など

【主要事業】

- ・江南跡地活用事業 ファミリー賃貸住宅整備
 - ・ファミリー世帯向け空き家改修助成
 - ・小林看護医療専門学校生支援事業
- など

小林市中心市街地活性化基本計画の事業概要

安定した雇用を創る

①江南跡地活用事業 商業施設整備

平成25年7月に閉店したスーパー江南跡地活用で整備する複合施設の1階フロアに、生鮮食料品や総菜を販売するスーパーマーケットを整備する。2階フロアには、市民生活のサービス・利便性を高めることに寄与する子育て支援施設等を整備する。

②江南跡地周辺整備事業 宿泊施設整備事業

江南跡地活用事業に併せ、周辺地域を一体的に整備し、宿泊機能の創出を図る。宿泊機能については、主としてビジネス客をターゲットとした仕様とし、民間事業者により運営する。



③チャレンジショップ事業

中心市街地内における商店街の空き店舗を改装してチャレンジショップ事業を行う。1年間の試行期間満了後は中心市街地内の空き店舗への出店を空き店舗家賃補助事業のほか、創業支援事業計画に基づき各種支援を実施する。

新しい人の流れを創る

④新市庁舎の建設・整備事業

従前の市役所機能の拡充に加え、市民の多様な交流が創出されるようオープンスペース等も合わせて整備する。平成29年度の工事完了を予定している。



⑤小林駅周辺整備事業

観光客やビジネス客の交通の結節点とするべく、駅舎改修と合わせ観光交流センター建設、駅北公園整備、電線類地中化、照明施設等を一体的に整備する。



⑥「てなんど」シャトルバス事業

観光客と小林市民をつなぐ「ゲートウェイ」である小林駅と観光施設を結ぶ臨時のシャトルバスを運行し、観光客のまちなか誘導を図る。

快適に暮らせるまちを創る

①江南跡地活用事業 ファミリー賃貸住宅整備

平成25年7月に閉店したスーパー江南跡地活用で整備する複合施設の3フロアを活用して、15戸のファミリー向け賃貸住宅を整備する。

⑦生涯学習センター整備検討事業

市民の生涯学習の拠点となる生涯学習センター建設に向け、建設地の選定、備えるべき機能、運営方法等を検討する調査事業を実施する。

⑧ファミリー世帯向け空き家改修助成

小林市と小林市中心市街地活性化協議会が中心となって、住宅リフォーム助成(上限15万円)を拡充するとともに、空き家発掘と改修相談も行う。

